

小説の読み方（学習の仕方）はいろいろある。今回の「山月記」は「李徴は何の象徴か？」という視点で読んでみよう。この小説は実際にはあり得ない話（フィクション）であることは自明だろう。しかし作者中島敦はこのフィクションを作り上げることによって、人間のどんな姿を描きたかったのだろうか？つまり、「李徴」はどんな人間の代表として描かれているのか、読み取ってみよう。

山月記 李徴の性格

小説を読む時にまず最初にすべき事は、小説の世界の設定を把握することである。設定というのは小説の舞台だったり、人物の性格だったり、ストーリーの背景だったりする。「山月記」では、序段に李徴の人物設定（性格）が詳細に描かれている。それを無視しては小説は読み取れない。

例に従い、李徴の人物設定や性格をまとめてみよう。（P24～P25を中心に）

頁行	表現（解説）	表現から読み取れる性格
例 P24L3	「博学才穎」（頭がよくて知恵が非常に優れている。） 「若くして名を虎榜に連ね」（若くても難関官僚試験に パスした。）	若くて頭がよい。エリート。